

〈書 評〉

Handbook of Liquid Crystals

H. Kelker and R. Hatz 著
Verlag Chemie, Weinheim (1980) 917 pp.

ここ数十年の液晶の研究や応用にはめざましいものがあり、それに伴って優れた解説書や総説も多く出版されている。その中でも大変ユニークな標題のハンドブックが本年 Kelker と Hatz により出版された。著者の一人である Kelker は、1969 年にシッフ塩基型のいわゆる「室温液晶 MBBA」の合成に成功した人であり、今日の液晶研究の隆盛の原動力を築いた研究者の一人である。

本書は数値表を並べた通常のハンドブックではなくて、各項目についての詳しい説明と豊富な文献を収録したものであり、既に液晶研究を行っている者にとっても、これから液晶を手掛けようとする者にとっても極めて便利な書物である。917 頁のうち、約 3 分の 1 に当る 285 頁が文献であり、その数は 8300 以上にも及んでいる。各文献には標題と Chemical Abstract での掲載箇所が併記されているので、利用に際してはなほ都合である。文献は 1976 年迄は完全に収録され、1977 年分もほとんどが収められている。どのような編集をしたのか驚異に感じられるのは、1980 年出版でありながら 1979 年迄の

文献も随所に引用されていることである。

本書は 15 章と引用文献、事項索引から成っており、本誌の読者に興味があると思われる熱力学的性質を取り扱った第 8 章には、本文 44 頁と 400 余りの文献が収録されている。この章では (1) 相転移の分類、(2) 相転移理論、(3) 相転移の前駆現象、(4) カロリメトリー、(5) 相転移の動力学とガラス状態、(6) 密度の温度変化、(7) 高圧実験、(8) 二成分系相図の項目に分けて解説されている。

ドイツには従来、有機化学の Beilstein、物理化学の Landolt-Börnstein、無機化学の Gmelin 等と徹底的に研究を体系化して、文献を整理する「整理学」が伝統であるが、本書も二人のドイツ人による著作ということで、ドイツの性格がよく顕現している良書である。たった二人の著者で 8300 以上の文献を整理した頭の構造はどうなっているのか、はなほ興味深いことである。

本の内容からすれば価格 6 万 3 千円は決して高くはないが、個人で購入するにはやはり高価であるのが難点であろう。研究所や図書館には是非揃えておきたい本であり、研究者が一度は目を通しておくべき良書である。

(阪大理 徂徠道夫)

『熱測定』編集委員会

(委員長) 上出健二、(委員) 影本彰弘、徂徠道夫、田村勝利、東原秀和

熱測定 Vol. 7, No. 4, 1980 昭和 55 年 10 月 10 日印刷
昭和 52 年 5 月 27 日 第 4 種 昭和 55 年 10 月 15 日発行
郵便物認可

編集兼 日本熱測定学会 松本直史
発行人

〒113 東京都文京区湯島 1-5-31 第一金森ビル内
電話 03-815-3988 振替 東京 9-110303